

## 1 総括

## (1) 教育目標（学校経営案より）

「じょうぶで、なかよく、しんけんに」を校訓とし、知・徳・体の調和のとれた人間形成を目指すとともに、生涯学習の視点に立ち、社会に貢献できる児童の育成を図る。

## (2) 本年度の重点努力目標

## ア 校内現職教育の推進

- ・ユニバーサルデザインを取り入れた児童にとって分かりやすい授業づくりをするなかで、一人一人の教師の力量が高まる学校を目指す。
- ・自己有用感を高める学級づくり・授業づくりを通して、「児童一人一人の」「学級の」「学年の」「学校の」七つの宝を見つけて育てる教師集団をめざす。

## イ 児童理解の充実

- ・児童や保護者の理解や信頼を得るために、日ごろの関係づくりを大切にする。
- ・児童との相談活動を充実させ、家庭環境や家族関係などを考慮した児童理解に努める。
- ・教職員全体で情報を共有し、指導に当たることができる体制を整える。

## ウ 子どもたちの環境整備

- ・自然（命）や物、時間を大切に扱う心を意識した教育活動を行う。
- ・こども見守り隊やボランティアの協力、充実を図る。
- ・FBC花壇を児童や職員、保護者とともに推し進める。

## エ 地域社会の中の連携

- ・学校運営協議会を設置し、情報や課題を共有し協働して教育活動を進める。
- ・近隣の小中学校や幼稚園・保育園と連携を強め、地域の願いを生かすように心がける。
- ・保護者を含め、地域のボランティア講師を招いて、児童とのふれあいや関わりを深める。

## 2 自己評価の実施体制

(1) 調査時期 平成29年11月30日～12月15日

(2) 調査項目 別紙アンケート参照

(3) 調査対象 有効回答者数／対象者数

- ・児童生徒322名／全 322名 ・学校運営協議会委員10名／全 10名
- ・保護者 482名／全 500名 ・教職員27名／全 27名 計841名

## 3 調査結果【資料として添付】

別紙アンケート結果参照

## 4 考 察【児童・生徒、保護者、教職員、地域等の総括的考察】

- (1) 全体的にみて特徴的なのは、教職員においては、15項目中良くなったのは昨年度の5項目から、さらに6項目増加したことである。残りの7項目においてもほとんど増減はなく高い達成度で推移している。しかし、2項目において、減少してしまった。保護者・児童の評価は、合計30項目中悪くなったのは児童の1項目、保護者2項目で、2項目で良くなっている。保護者においては、達成状況のAが15項目中12項目を占めており、達成状況がBの項目は「家庭で、わが子は自主的に学習している」68%、「家庭内のお手伝いをさせている」74%、「家族や友達、地域の人に進んで挨拶ができる」74%の3項目である。
- (2) 児童においては、「家で進んで勉強している」の項目が昨年度より9%上昇している。これは、「学校の授

業は分かりやすい」や「先生は、がんばったときによくほめてくれる」の項目がともに上昇していることと相関関係があると思われる。しかし、「おうちの人にもっと学校での様子を見てほしい」の項目の数値は昨年度と同様に59%と低く、高学年になるに従って低くなる傾向にある。

- (3) 教職員の評価では、6項目が昨年度より上がっている。達成状況別に絞ってみると、Aが13項目、Bが1項目、Dが1項目と全般的には、昨年度よりバランス良くまとまった結果となっている。「人に進んであいさつをしている」の項目では、達成度がD評価となっている。学校として取組や徹底の方法を反省するとともに、児童自身が考えて行動する態度を身につけさせたい。
- (4) 保護者からは、学校の取組を評価する内容、改善していくとよい点について指摘があった。学校独自で取り組めるもの、そうでないものを精査しながら検討し、前向きに取り組む必要がある。  
※詳細は、別紙「保護者意見集約」参照

## 5 成果と課題

### 《成果》

- (1) 保護者アンケートでは、多少の変動はあるものの、全般に高い数値で安定しており、12項目で達成状況がAである。そのうち10項目で90%を上回っており、好意的に学校をとらえているといえる。今後も「開かれた学校」をアピールし、保護者の理解を得ることが大切である。
- (2) 児童アンケートでは「授業が分かりやすい」の項目の達成状況がやや上がっている。教職員アンケート「授業を工夫し、個に応じた授業を行うように努め、学びあいの学習に取り組んでいる」の項目の達成状況が昨年度に比べ、さらに上昇した。校内現職教育や授業研究などを通して、教職員が日々努力してきたことが評価されたと思われる。
- (3) 学校の教育活動にボランティアとして、より多くの保護者や地域の方に参加していただくよう積極的にオタより等で広く募集したことで、昨年度よりも多くの方に参加していただくことができた。教育活動の充実につながるとともに、地域の方に学校を理解していただき、子ども達が地域の方々と触れ合う貴重な機会となった。

### 《課題》

- (1) 今年度、「コミュニティ・スクール」を立ち上げ、「自ら進んで挨拶」に取り組んできた。児童の挨拶の項目の達成状況は昨年度に引き続き90%近くあるが、保護者の評価は74%、教職員の評価が56%と昨年度より減少した。学校・家庭・地域の共通課題として取り上げたことで、「自ら進んで」挨拶をする児童は増加したものの、「自ら進んで」や「地域の方へ」の部分で評価が厳しくなったと思われる。保護者や地域の住民からも挨拶の徹底を望む声が学校に伝えられる状況は変わらず、日々指導や声かけをしている。さらに具体的な指導や方策を考え、今後につなげたい。
- (2) 保護者の評価で達成状況が最も低い項目が「家庭で自主的に学習している」であり、昨年同様68%である。教職員の「自主学習に取り組めるように働きかけている」の項目では、昨年度に比べ減少しているので、学習の進め方や取組の方法などを家庭に伝えるとともに、具体的な方法を学校全体で考え実践を進めたい。
- (3) 児童アンケートの項目「毎日学校へ行くのが楽しい」では、まだ11%の児童が楽しさを実感できていないことが調査から分かり、そのような児童の気持ちに寄り添う指導を工夫することが必要である。

## 6 改善策

- (1) 通学班会議等で班長や副班長に挨拶への意識を高めさせ、高学年が「自ら進んで挨拶」をし、低学年の手本となるようにはたらきかけたり、児童会を中心に校内のあいさつ運動をさらに充実させたりする。
- (2) 各種行事の開催方法についてのご意見をいくつかいただいた。保護者の要望を念頭に置いて、職員で検討したい。